

室礼 — 自然共生型建築モデルの提案

[shitsurae] - proposal of the natural symbiosis type construction model

古市徹雄研究室 0874020 中村篤史

□計画背景

「大量消費」「大量生産」によって社会は驚くべき成長をとげることに成功した。先進国では物があふれ物質的な豊かさを獲得する事ができた。しかし、科学技術と資本主義に後押しされてきた近代建築の幕は21世紀現代で見直されつつある。



□限りある資源

18C 産業革命以降、人類は機械と共に目覚ましい発展をしてきた。蒸気のエネルギーを使用する事で、我々は急速に近代化し機械利用した大量生産時代へ突入した。機械文明の大量生産は資本主義という魔物を生み出し、人類は爆発的に成長する事に成功した。

生活は日々刻々と豊かになった。大量の殺戮兵器、大量の資源、大量の生活用品。この時代人類は宇宙にまで到達する事に成功した。これらの成功が進化の針を押し進めているという錯覚を誰も疑う事なかった。

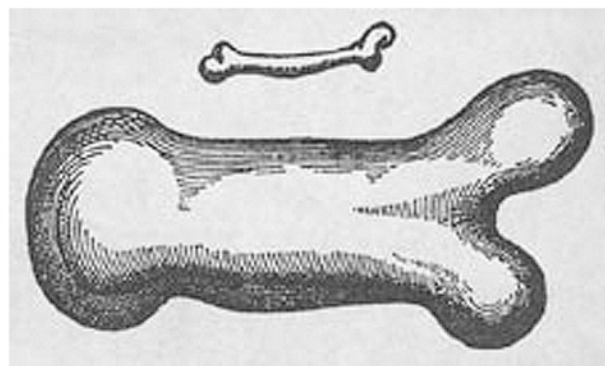
「成長の限界」はそんな時代に最初に疑いの警告を発した。1972年、ローマクラブが資源と地球の有限性に着目し、人口増加や環境汚染などの現在の傾向が続けば100年以内に地球上の成長は限界に達すると警鐘を鳴らした。産業革命から約1世紀半を経てようやく人類は地球の有限性を自覚した。

2010年現在、地球上では環境破壊の影響により実に様々な自然災害が発生している。宇宙空間に奇跡の様に存在するこの星の上で生きていく術を再考しなければならない。

□2乗3乗法則

2乗3乗の法則（2じょう3じょうのほうそく）とは、工学や生物学などにおいて言及される法則。相似な形状をした2つの物体について、代表長さの2乗に比例する面積に関する物理量と、3乗に比例する体積に関する量とを比較し、このときそれぞれの量の変化の割合も、おおむね2乗と3乗のオーダーとなることを法則と呼んでいる。

それを増加方向に考えるのではなく減少方向に考える。一辺の長さが1/4になれば面積は1/16となり体積に換算すると1/64になる。これを住宅を建てる時の建築資材に換算すると、無駄な面積をなくしたプランニングが普及する事は有限な資源の有効活用にダイレクトにつながってくると言っても過言ではない。



■コンパクト化と多様化

携帯電話に代表される端末のデバイスは年々小さく、多様化している。少し前まではインターネットのインフラも整ってなかったのに、今や携帯電話でどこでもインターネットをする事が出来る時代が来た。小さくできる物はより小さく、多欲化する物はより多様化する流れがある。その流れはあらゆるところで起きている。

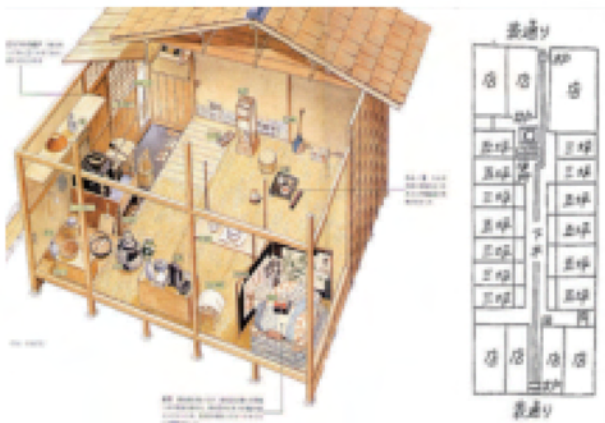
インドで発売されているTATANANOという車は10万ルピー（当時の価格28万円）で4人乗り。動くという機能から徹底的に無駄を排する事で、コンパクト化、低価格を提案、実現している。

しかし、寝食分離、nLDkがスタンダードとして普及している建設産業の中では未だに無駄の多い建物が蔓延しているのが現状としてある。



■ 室礼という文化

寝食分離、nLDKといった住宅分野に神話のように残るこの計画学が普及するそれ以前の日本の住居では、長屋に代表される限られた空間を室礼という住まい工夫によって豊かに暮らしていた。室礼とは、もともと平安時代、簡素な寝殿造りに住まう人々が季節のハレの行事に建築を飾り立てる事から始まった。現在では移動して場や空間をつくる事を、室礼するという動詞表現として使用している。わかりやすいところでは、「食卓を室礼る」「寝床を室礼る」と使用する。現代になってもこのような言葉として代表される「室礼」という文化は日本人の感性として残っている。



■ 住むための舞台

舞台は限られたステージという大きさの中で、様々なシーンを演出している。そのため室礼に似た様々な工夫が多くある。舞台のように住空間を室礼る事で、住まいの無駄を減らしコンパクト化、住まいの複雑化にも対応する豊かな住空間を提案する。

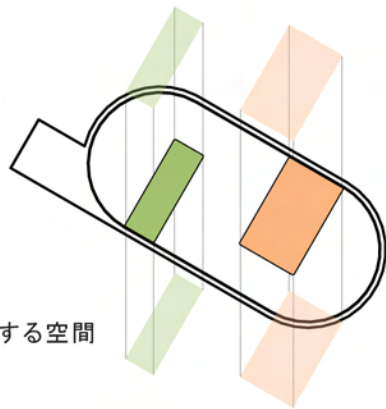


■ 垂直移動するリフト（大道具）

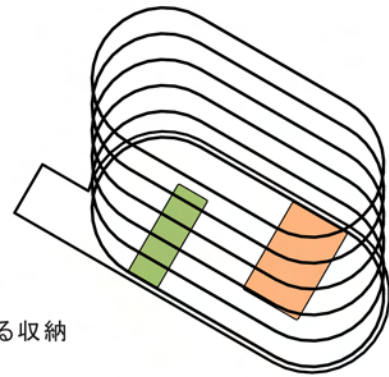
最小限の空間に水回り、キッチンとバストイレが垂直に上下する。これによって30㎡の空間はワンルームから大きなテーブルになったり大きなソファーになったり、空間を2つに仕切ったり、3つに仕切る。

■ 水平回転をする収納（小道具）

身の回りの生活用品が建物の外壁にそってぐるぐると水平に回転移動する。手元に本棚がくればそこは自分だけの読書の場となり、目の前に洋服がくればそこは自分の洋服がかかった洋服屋さんになったり、小さな家にはその季節、一日の時間帯によって様々な表情になる。



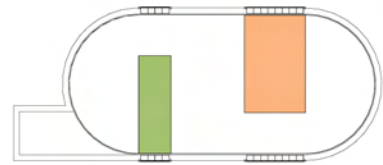
垂直運動する空間



垂直運動する収納

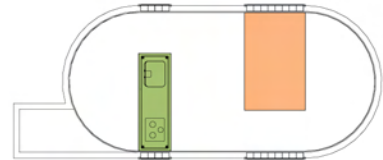
提案の基本形

ボヤームが一番下にあるとき
30 m²の広い空間になる。
子供たちは走り回り、多目的な
空間として開いた空間になる。



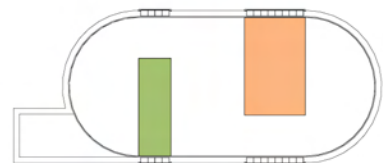
キッチンダイニングの演出

キッチンのホリュームを上にあげ
バスのボリュームをテーブルの高
さにする。大きなテーブルと大き
なダイニングの空間になる。
客人をもてなす空間にもなる。



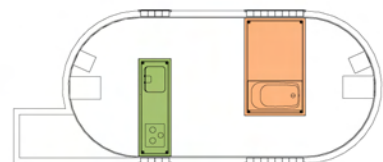
ベツルームの演出

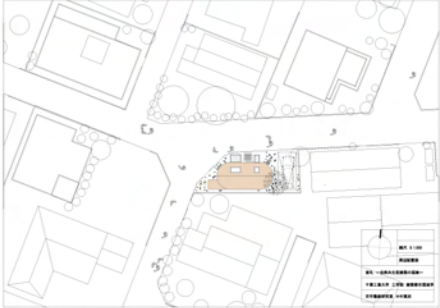
キッチンのホリュームとバスのボ
リュームを上を上げる。旅館で
雑魚寝するように 30 m²の別途
ルームができる。



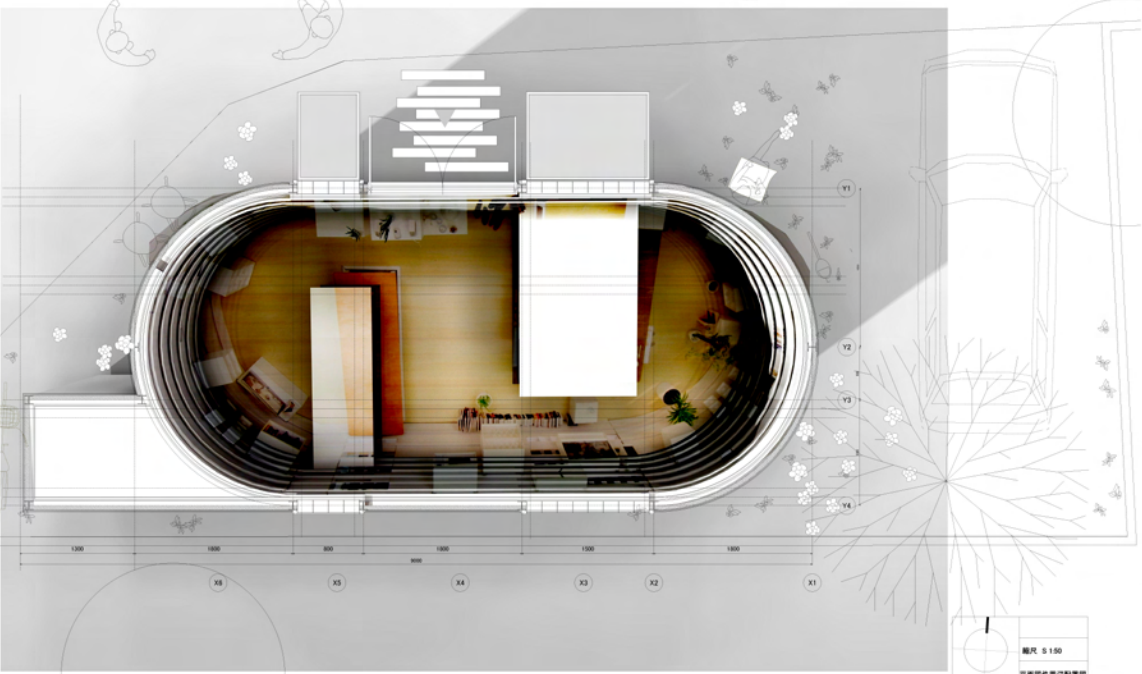
個室の演出

家族内でお互いにちょっとした距
離を置いて一人になるとき、キッ
チンのホリュームとバスのリユー
ムを上を上げる。個人個人がそ
れぞれの空間をつくる事ができ
る。





敷地は、従来の都市計画の枠組みを越えて、
 公共空間と民間空間の境界を曖昧にし、
 都市の活力を生み出すことを目指している。
 建築設計は、都市の再生と発展に貢献する
 役割を果たすことを目指している。



縮尺 5 100
 平面図併用断面図
 資料 『自然共生型建築の提案』
 千葉工業大学 工学部 建築都市環境学
 古市健雄研究室 中村篤史